

百万石介護 メンズ倶楽部

第6報

発行編集責任者 越野 勝彦
非売品

会合の参加希望は
事前にお知らせをお願いします。

＜メール＞
介護者代表：越野 勝彦
kkosshy@gmail.com
支援者代表：彦 聖美
hikoki@ishikawa-nu.ac.jp
＜郵送・電話＞
〒929-1210

かほく市学道台1丁目1番地
石川県立看護大学
在宅看護学 准教授 彦 聖美
tel:076-281-8371(10～16時)

※不定期購読者募集！！
発行時に郵送いたします
申込：彦までご連絡下さい

能登で介護の「結い」誕生

特集①家族介護者 能登サミット 特集②第2号被保険者を介護する男性 特集③バリアフリー！北海道旅行

能登各地の家族介護者と支援者が集合して「能登サミット」が開催され、ゆるやかな連携、交流を目指すネットワークが誕生しました。
裏面には、「第4報で紹介の第1号被保険者に引き続き、第2号被保険者を介護する男性介護者のデータの特徴」と「要介護5の妻と2人で北海道旅行した話」について特集しました。毎日の介護を前向きに楽しむ介護の達人たちが多くいます。その挑戦・創意工夫・経験を共有しましょう。

特集①家族介護者 能登サミット

▼能登地域の状況
▼今後10年以上、能登地域の総人口は減少し、高齢者人口は増加します。高齢化率は平成27年推計で、全国28.8%に比べ、石川県28.2%、能登中部29.8%、能登北部29.5%と高く、さらに今後増加傾向です。当然、要介護者とその介護者も増加します。

▼目指すもの＝能登家族介護者支援の「結い」(ゆい)を広げよう！
▼「結い」とは、田植えなど一時に多大な労力を要する際に行う共同労働の形態のこと。共同、協働。
▼介護される人も介護する人も安心して暮らせるように、資源を共有し、有効活用する。

▼2か所で事前交流会
▼中能登地域交流会
平成27年9月5日
羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町から介護者20名、支援者21名と、学生他5名で合計47名参加
▼奥能登地域交流会
平成27年9月19日
輪島市、珠洲市、穴水町、能登町から介護者28名、支援者16名と学生他で合計49名参加
▼初めての交流でしたが、各団体の紹介やグループに分かれて「こんな家族介護者支援があったらいいね」の意見をまとめました。

▼男性介護者・家族介護者 能登サミット
語ろう介護！知ろう地域の輪！
平成27年11月14日
場所：羽咋市コスモアイル小ホールにて
参加者：介護者44名、支援者40名、他22名の合計106名(左表参照)
▼内容
①介護者の話
・輪島市の男性介護者
・羽咋市 在宅介護者の会「らくだの会」
・穴水町 家族介護者の会「あつまつらふ会」
②意見交換、質問
③百万石介護メンズ倶楽部と会報の紹介
④2回の地域交流会の結果と意見の紹介
▼今後の取組の提案
・少ない人、もの、資源を共有して、有効活用する！・身近な資源を発掘する。・「ひと」と「ひと」のつながりは、大きな財産です。次年度以降も地域交流会、サミットを継続
▼介護者部会、支援者部会での交流の場、レクリエーションなど、皆さんと相談しながら一歩一歩進めましょう！

	支援者	介護者	他
羽咋市	12	10	1
中能登町	2	6	0
宝達志水町	1	4	1
志賀町	5	0	3
七尾市	6	0	0
輪島市	4	1	5
穴水町	1	7	0
能登町	3	5	0
珠洲市	1	8	0
その他	5	3	12
合計	40	44	22



▼能登サミット宣言
▼私たちは、介護する側もされる側も、誰もが安心して暮らせる能登地域を目指していきます。ゆるやかなでやさしい能登の「結い」を紡いで(つむいで)いきます。困ったときは、お互いに助けを求め、助け合います。▼健康第一、一日一回、だれかと話そう！大声で笑おう！を実行します。
▼石川県立看護大学 在宅看護学 彦 聖美 学内研究助成金で実施

▼百万石介護メンズ倶楽部 金沢市
金沢市に集まれる男性介護者の会です。
▼出席者の介護レベルの向上を目標とし①経験談・工夫の共有②介護知識・制度・用具の情報交換を行います。お互いに対等で自発的に参加です。
▼男性介護者自身の運営により、お金と時間に負担のかからない運営をします。会費無料
▼日時：毎月第3水曜 13:00～14:30
▼場所：金沢福祉用具情報プラザ(金沢市本町一丁目) 2階研修室
▼日時変更あります。ホームページには最新の予定や過去の内容などを掲載しています。

男性介護者の会は「情報を求める人の自発的な集まり」でありたい。「愚痴」や「要求」より「自分で何とかしよう」という集まりでありたい。と思います。行政やケアマネさんから得られない情報が得られます。

ホームページ紹介
■百万石介護メンズ倶楽部
<http://www.asahi-net.or.jp/~KB4K-KSN/kaigo>
当会のホームページ…今後予定や過去話題
◆掲示板 <http://b5.spline.tv/hkmc2/>
■男の自宅介護生活/妻が脳出血
<http://www.asahi-net.or.jp/~KB4K-KSN/>
介護者代表のホームページ
◆ブログ <http://kkosshy.asablo.jp/blog/>

▼特別付録 第2弾
介護マシンの活用は、女性用のトイレや買い物など、介護中であることが周囲に告知するものです。



特集① 第2号被保険者を介護する男性は県内に約三百人

▼第四報で紹介した当会支援者代表による石川県の男性介護者の調査データから、第2号被保険者を介護する男性介護者(88人)のデータをまとめてみました。▼認定・居室サービス総数366人から推計すると、石川県には第2号被保険者を介護する男性介護者は約三百人いるようです。

▼第2号被保険者とは、40〜64歳で、特定疾病という16種類の病気で介護が必要と認定された人をいいます。データの取れた88人という人数は非常に少なく、統計的には不適切かもしれませんが、第1号被保険者を介護する男性介護者(以下第1号と表記)と比較して要介護者が40〜64歳で若いため、年齢的には下のグラフのように、1号に非常に少なく、1号に非常に少ない「父親」がいます。

▼平均年齢61歳

- ・60代が48%
- ・80代14% 70代6%

で子供を介護している父親が2割近くいる。10代20代の男性介護者が5%いる。

▼通院率26%は、一般の50代39%、60代56%に比べ低く、40代の通院率に匹敵する。

▼1号の通院率は45%

▼有職率は67%と高い(1号の有職率は43%)

▼1号の有職率は43%

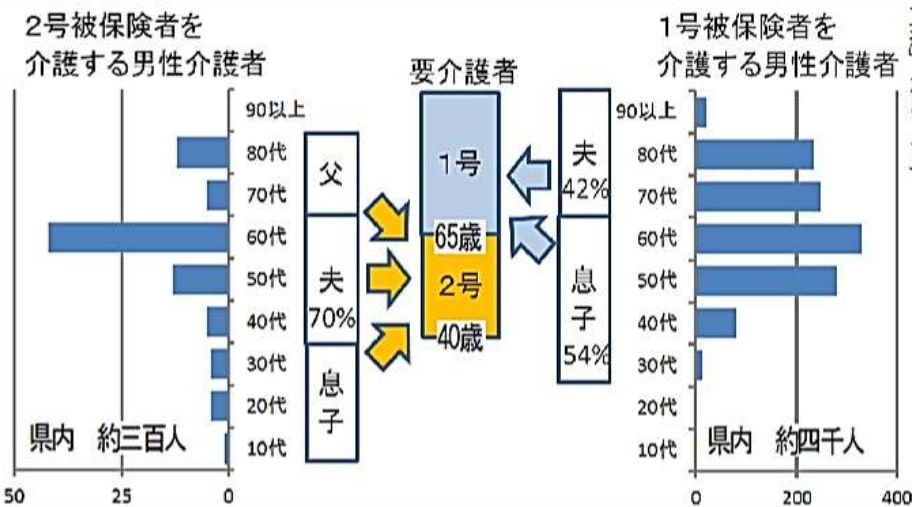
▼要介護者は、配偶者が70%、女性が88%、主病名の1位は脳血管障害34%

▼1号は配偶者40%、女性90%、主病名の1位は認知症41%、脳血管障害28%

▼わかつたこと

▼支援の違い

▼第1号被保険者は65歳以上ではないので、高齢者で支援される介護手当てや「紙おむつ支給」「緊急通報装置貸与」などは残念ながら適用されませんが、65歳以下でも、障害者としての「紙おむつ支給」があります。



	第1号	第2号	1号比較
調査回答	1226人	88人	少ない
推定総数	約四千人	約三百人	6.6%
平均年齢	約67歳	約61歳	少し若い
通院率	45%	26%	低い
有職率	43%	67%	高い
続柄・夫	40%	70%	夫が多い

特集③ バリアフリー旅行 要介護5の妻と北海道5泊6日

要介護5の妻と二人で今年7月8日出発5泊6日で北海道旅行に行きました。金沢37℃の時、北海道も30℃でしたが湿度が低く、最高の旅行が出来ました。

▼行程 金沢(高速)→新潟(フェリー)→小樽(札幌)→札幌(ホテル)→旭川(ホテル)→小樽(新潟)→金沢(観光)→富良野(美瑛)→札幌(ホテル)→市内観光(旭川)→市内観光(ホテル)→旭川(ホテル)→市内観光(小樽)→新潟(金沢)→観光(富良野・美瑛)の景色と道央自動車道のドライブは爽快でした。札幌では、ひつじが丘公園(クラークの記念碑)の景色、ユリが原公園の花がお勧めです。

▼交通手段

- △車：ホテルで、後ろにシャワーキャリーと車椅子の2台積んで、リクライニング可能な助手席に妻を乗せて、フェリー・新潟小樽を往復しました。
- △旅客運賃：身体障害者介護者は半額です。車高は割引適用外です。フェリーの乗り方は障害者専用が5台あり、一緒に乗ってエレベーターで上がります。行きは大きめの部屋で、幅や段差は車いす問題ありません。帰りはバリアフリー専用の部屋を予約できました。(2か月前の予約)料金も数百円の差です。
- △高速道路は障害者割引で半額(ETC)
- △旭山動物園(旭川)障害者と同伴者は無料

▼宿泊 ホテルで3泊。ホテル・シャトルサービスのポイントで2泊とビジネスホテル1泊。バリアフリー用とは区別していないが、いずれも車いす入る床、段差無しです。

▼入浴

- △フェリーでは浴室が広く洗い場にシャワーキャリーが置けました。
- △ホテルでは車いす専用ではないですが、広いので浴槽にシャワーキャリーを入れて入りました。

▼おむつ交換 成人のオムツを交換する所は、高速道ではサービスエリアには完備されていましたが、パーキングエリアではまだありませんでした。大きな施設や、テーマパークでのオムツ交換は、救護室の利用が出来ました。

▼食へ物 一番の問題でした。船内での妻の食事に食を準備し、ホテルや外食ではメニューに粥や雑炊があり、なんとかクリアできました。あとは大好きなスイーツは良く食べました。

▼フェリーの浴室(介護用)

▼SAの多機能トイレ(ベッド)

柳谷博之

小樽 新潟 金沢

一番の問題でした。船内での妻の食事に食を準備し、ホテルや外食ではメニューに粥や雑炊があり、なんとかクリアできました。あとは大好きなスイーツは良く食べました。

▼つくづく妻と同伴で良かったと思つてます。ショートステイに預けては体は楽でもおもしろさは楽しめません。私も74歳になり、これが最後の長旅かもしれないですが、まだ無理をせずに旅行したいと思つてます。是非楽しい旅行をお勧めします。

柳谷博之